

教職大学院新任部会長から

副専攻長兼プロジェクトチーム統括 吉田 美穂



教職大学院開設に合わせて、神奈川県より弘前大学に着任して早5年と半年。「青森県の子どもたちのために」と日々研修に取り組む現職の先生方や、「青森県で先生になりたい」と実習に励む若い院生たちと接して、私の中に芽生えたのは、「とにかく青森を知らなくては」という想いでした。教職大学院主催の研修に参加された先生の学校は、どこにあるのだろう？ 下北半島の先の3学級しかないこの小学校は、どんな風景、どんな人々の暮らしの中に建っていて、どんな子どもたちの姿をみつめているんだろう…。自分が今住んでいる津軽平野と、八甲田山を超えた向こうの地域は、どんなふうが違うのだろう？ 子どもたちと先生たちが暮らしている地域の風土を肌感覚で知りたくて、青森中を走り回りました。最初の年、まだ冬用タイヤに替えていない11月末、下北の学校からの帰り道に雪となり、平内あたりの国道で車がすう〜と路肩に滑っていったときには怖かったです。めげずに2年目からは4WDの車で走りました。八甲田山、岩木山、梵珠山に登り、春にはブナの新緑と水芭蕉やカタクリなどの花々に、秋には黄色の強い紅葉に包まれ、冬には雪景色の美しさとその厳しさを体感しました。日が昇る種差海岸、日が沈む千畳敷。奥入瀬の苔の美しさ、十二湖の揺らめく色彩、雪の中にたたずむ寒立馬。そんな素晴らしすぎる風景に見とれつつ、どこに行っても人が本当に少ない…。でも、訪れるあちこちの学校で、子どもたちの笑顔があり、子どもたちに丁寧に接する先生たちの姿があって、温かい気持ちをもたらしてきました。人口減少を続ける青森という地域のこれからのために、子どもたちの学びと、それを支える先生たちの学びがどうあったらいいのか、青森に生きる方たちと一緒に考えていきたいと、6年目の今、気持ちを新たにしています。

教務部会長兼FD推進部会長 菊地 一文



今年度からFD・教務部会長を務めさせていただくことになりました。

FD・教務部会では、教育内容等の改善のための組織的な研修を意味する「FD（ファカルティ・ディベロップメント）」として、教職大学院の理念や制度、教育技法の改善、授業評価に関する研修を年12回企画・実施しています。また、「教務」として、カリキュラムの編成及び点検、院生への履修案内、教室・機器調整、授業評価等を行っています。学校現場で言えば、「研究・研修部」と「教務部」を一体化したような役割を担っています。

また、改組後完成年度を迎え、設置6年目となったことを踏まえ、今年度から新たな試みとして「授業公開 Week」を実施しています。前・後期の一週間の授業をハイフレックス（対面＋オンライン）型で公開し、教員がお互いに授業を参観し合い、工夫点や課題をFormsに入力して共有し、充実・改善方策について協議・検討するというものです。後期は10月中旬に予定しており、外部の皆様にも公開予定です。本ニュースレターをお読みの皆様におかれましても、ぜひ教職大学院の学修を知っていただき、たくさんのご意見をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

教職大学院の取組（プロジェクトチームからの報告）



今年度から本格実施している充実期研修講座についてご紹介します。この講座は充実期に求められる指導力とマネジメント力の伸長を目指して、4月～11月に継続して展開され、今年は校長推薦を受けた30代～40代前半の各校種の先生方26名が受講されています。忙しいミドルリーダー世代の先生方が勤務校をあまり空けることなく、でも、勤務校での学校改善につながる研修を受けられるよう、集合研修の2日間（7月末と11月末）を除き、オンデマンド配信やオンライン協議で構成しています。

4月にガイダンスと最新の教育事情を学ぶ講義をオンデマンドで配信、勤務校の内外環境や人材育成を考えるワークに各自で取り組んでいただき、5～6月はそれを踏まえたオンライン協議で思考を深め、勤務校の改善に向けたアクション・プランを各自で作成していきます。テーマは、勤務校の状況に

応じて、若手教員の人材育成、ICT活用による授業改善、学年や分掌業務のマネジメントなど多岐にわたります。

7月末の集合研修は、午前には講義、午後には各自が考えてきたアクション・プランについて発表・協議し、大変充実した時間となりました。8月には希望者が受講できる実践事例コンサルテーションを3回設定。各回とも昨年度受講生1名が昨年度の実践を発表し、今年度受講生が質疑応答したり相談したりできる場としています。9月現在、先生方は、第2回集合研修での報告に向け、それぞれの勤務校でアクション・プランを実践されているところです。11月末の実践報告が楽しみです。

来年度の申込は、今年度の2～3月を予定しています。受講を希望される方、推薦をお考えの校長先生、今からご検討いただければ幸いです。

また、今年度から新たに、全教員を対象とした公開セミナーも開始しました。11月12日（土）の第3回は「ゲーム依存の子どもにどう接するか？」です。教職大学院ホームページの研修講座申込からお申込いただけます。ぜひご参加ください。



「対面」と「オンライン」による

令和4年度 2年次院生による中間報告会及びホームカミング日の開催



昨年度の年次報告会

昨年度、令和4年2月10日（木）の年次報告会で、現在の2年次院生が自身の研究テーマをもとに取組内容を報告いたしました。それから約8ヶ月が過ぎ、そのとき頂きましたご意見をもとに問いを吟味し、取組を深化させ、子供たちの資質・能力を高める教師、組織を活かして学校課題解決に取り組めるミドルリーダーを目指して頑張っているところです。今年度の中間報告会は、昨年度同様「対面」方式と「Zoomによるオンライン」方式を併用して行います。広く学外の方々、遠方の方々にもご参加いただけるように、このような形にいたしました。チラシも配布させていただきましたが、改めて皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【日 時】 令和4年11月3日（木・祝日）8：45～17：40〔受付〕8：20～

【会 場】 弘前大学教育学部& Zoom によるオンライン会場

【第1会場】 1F大教室（主会場） 【第2会場】 2F大教室

【第3会場】 1F 中教室 【第4会場】 3F 302教室

- 【次 第】 (1) 全体会開会 (8:45~8:55, 【第1会場】 1階大教室)
(2) 2年次学校教育・教科領域・特別支援教育実践コース院生研究報告
(9:00~11:50, 【第1会場】 1F 大教室、【第2会場】 2F 大教室)
(3) 進学説明会 (11:55~12:20, 2F 大教室)
(4) 2年次ミドルリーダー養成コース院生研究報告
(12:50~15:20, 【第1会場】 1F 大教室、【第2会場】 2F 大教室)
(5) ホームカミングデイ [修了生の発表及び在学院生との討議]
テーマ:「教職大学院での学びと教育現場とのつながり」
(15:20~17:30)
(6) 全体会閉会 (17:30~17:40, 【第1会場】 1F 大教室)

【申込期間】 9月15日(木)~10月21日(金)

【申込方法】 右記QRコードもしくは、下記のURLから申込フォームにアクセスにて。

■「中間報告会」申込フォームのURL <https://forms.office.com/r/UJNr9yjCh3>



大学院の授業を受けてみて

M1 教科領域実践コース 瓜生 太知



私が前期の授業で印象に残っていることは、理論的に学ぶだけでなく学校現場での実際と照らし合わせながら学習を進めることができた点です。特に「インクルーシブ教育システムの理論と課題」では、教職大学院の先生方が実際に指導された実例を基にどのような手立てを講じることができるか考えを深めることができました。また、「教育相談の理論と方法」では、教育相談の理論を学ぶだけでなく現職のミドルリーダー養成コースの先生方が提供してくれた実例を基に理論を応用させたり、実際にカウンセリングを体験したりする等より深く・実践的に学ぶことができる授業がとても充実している

ように感じています。

また、実習もとても充実していました。学部生の時は、一緒に実習に参加している学生も同じ校種の免許を取得している人がほとんどでしたが、教職大学院に入り他校種の先生方と実習を通じて、交流していく中で今まで当たり前として捉えていた子ども達の姿が他の先生の見方から考えるといろいろな深まり方があり、とても勉強になりました。

M1 ミドルリーダー養成コース 大池 由紀子

「教育を俯瞰する」

県教育委員会、市教育委員会、総合学校教育センター、総合社会教育センター、梵珠少年自然の家、5つの教育関連施設の観察実習を通して「教育を俯瞰する」ことができました。

学校現場にいと、目の前の児童・生徒、勤務校の「今」の教育課題への関心は高いです。一方で、各教育関連施設からの情報提供や事業企画に対して、どこか他人事のように受け止めている部分がありました。例えば、いじめ防止プログラムの実施はいじめがない時は必要性を感じませんが、進学・就職したときに必要なスキルとして身につけておくべきことです。私たちは「指導する内容を選択している」ということに気が付きました。そして、教育関連施設は学力や生徒指導面の「地域差をなくして教育水準を維持するため」や「卒業後を見据えた生徒の成長のため」、「未来の青森県のため」に大きな視野で課題意識をもって業務にあたっていることがわかりました。

間接的な立場で教育を多面的・多角的に支えてくださっている人達がいることに感謝しています。これからは、それぞれの施策や事業企画の背景の理解に努め、連携を図りながら本県の教育水準の向上に尽力したいと思います。

教職大学院での生活

M2教科領域実践コース 濱谷 大輔



「すべてが自身の学びに」

入学してから様々な活動に取り組んできましたが、どれも貴重な経験であり、有意義な生活を送ることができています。例えば、教職大学院での生活は自治的に運営されているため、院生間で役割分担して活動したり、授業研究や場面指導等を自主的に企画したりしています。これは過ごしやすい環境を整えるためだけでなく、学校現場における学級経営や校務分掌にもつながると考えられます。他には、大学教員の紹介により、普段経験できない活動に参加できることもあります。私であれば、外国につながる児童生徒の日本語支援に参加しておりますが、児童生徒の成長のために教材を工夫したり、

やさしい日本語に言い換えたりする経験が、授業実践や生徒指導等にも役立っています。このように、すべてが今後につながっていることを実感することができ、充実した日々となっています。今後も様々な活動に積極的に取り組み、自身の学びを深めていきたいと考えています。

M1ミドルリーダー養成コース 寺山 陽子



「ワークライフバランスを考える」

初めは環境の変化に戸惑うこともありましたが、5ヶ月が過ぎ、ようやく学校生活を楽しむ余裕が出てきました。毎日充実した日々を過ごしています。ただ、学校で勤務している頃と一番変わったのは運動量です。激減しています。教室移動も、最短ルートを見つけてしまいました。今、一番怖いものは健康診断です。

次に変わったのは読書量です。隙間時間を見つけて図書館を利用しています。特に洋書コーナーには多読におススメの本がたくさんあり、時間がたつのを忘れるほどです。またいつでもBBCやCNNを聞くことのできる空間が

あり、学びたい人のための環境が整っています。

新しくできた楽しい仲間や応援してくれる家族のために、何より自分自身のために、ワークライフバランスの大切さを感じています。できることから実践し理想の自分を目指したいです。周囲の人を大切にするためにも、まず自分を大切にしなければならないと感じています。

中間報告会に向けて

M2ミドルリーダー養成コース 大平 慎悟 テーマ：協働的な組織文化の醸成一校内研修



の充実を通してー

校内研修会において、場の雰囲気をやわらげたり話しやすい雰囲気を作り上げたりするなど場の質を高めていくこと。また、教員相互のコ

ミュニケーションの機会を校内研修の中で意図的に作り、関係性の質を高めること。これらをねらいとし、アイスブレイクの導入やコーヒーやお菓子を用意しての話し合い、ワークショップ型の話し合い等を校内研修会に取り入れて実践してきました。中間報告会では、これまでの実践における成果や課題を報告し、今後のよりよい活動の在り方について考察を深めていけたらと考えています。

M2ミドルリーダー養成コース 葛西 彩 テーマ：よりよい人間関係を構築するための



学級づくりのあり方 ーSELー8Sプログラムを通してー

社会的スキルを身につけることでよりよい人間関係を築くことができれば、居心地のよい学級になり、登校渋

りや不登校を防ぐことができるのではないかと考えたのもと、SELー8Sプログラムの学習を進めています。担当学年・学級だけではなく、6学年にも協力していただき、授業実践を行っています。中間報告会では、データの変容だけではなく、児童が学習したことをどのような場面で生かしているのか、児童の行動の様子が4月からどのように変容してきているかということについてもお伝えできればと思っております。

M2ミドルリーダー養成コース 金田一 大輔
テーマ：全ての生徒の教育的ニーズに応える**個別最適化された授業の在り方—UDLの認知のネットワークの視点に着目して—**

私は個別最適化された授業を目指し、学びのユニバーサル

デザイン(UDL)の視点を取り入れた授業実践を行っています。今年度は研修主任を務め、自身の研究と校内研を共通のテーマとさせていただき実践を重ねてきました。UDLの視点はこれまで先生方が積み重ねてきた授業理念と異なる部分があり、協働的な実践のバリアとなっています。しかし、先生方との話し合いやUDLを取り入れた協働的な授業実践を通し、少しずつではありますが、研究が進んできたと感じています。中間報告会では、これまでの研究の経過、教師と生徒の意見や変化など現在の進捗状況についてお伝えしたいと思います。

M2ミドルリーダー養成コース 須藤 千代子
テーマ：知的障害特別支援学校小学部の生活**単元学習における学習評価の在り方—各教科等と関連づけた目標の設定と学習評価の方法—**

知的障害特別支援学校小学部の各教科等を合わせた指導の

1つである生活単元学習において、各教科等と関連づけた目標を設定し、児童生徒の学習の成果を捉える学習評価を適切に行うための効果的な方法について、日々の授業実践に取り組んでいます。中間報告会では、生活単元学習の年間指導計画の前期で取り組んだ中の2単元を取り上げ、これまでの実践における成果や課題等について進捗状況を報告し、さらに研究を深めていきたいと考えています。

M2ミドルリーダー養成コース 田中 美紀
テーマ：知的障害のある生徒に対するキャリア**発達を促すホームルーム活動の在り方に関する研究—目標設定、振り返りと対話に着目して—**

本校は、生徒一人一人の社会的・職業

的自立を目指しています。また、校訓である「努力、礼儀、協和」を大切にし、教育活動を展開しています。本研究では、キャリア発達の視点から生徒自身のいまと将来をつなぐ「対話」に着目し、PATH、PAC分析、TEM図等のツールを参考とした授業を実践しています。今回、各プログラムから得た示唆を踏まえ、今後の方向性を見出す機会にしたいと思います。また、教員として子どもたちの成長に立ち会えることに感謝の意をもち、引き続き教育実践していきたいと考えています。

M2ミドルリーダー養成コース 成田 悠仁
テーマ：子どもの学びの事実を見取り深める**授業研究デザインに関する一考察—校内研修における授業参観と研究協議会を中心に—**

校内研修の価値を高め、授業者ファーストであり、参会者

も何かしらの資質が身に付き、欲を言えば業務負担も減らしたい。至極わがままな私の願いをかなえるための視点を、昨年度「子どもの学びの見取り」に見出しました。今年度にとどまらず、さらに長い視点で研究を進めたいと思っています。興味のある方は発表をお聞きください。ところで、私が研究活動をするということは、本校の先生方に余分な仕事をお願いするという事です。忙しい中でもアンケートやインタビューに快く応じてくださり、新しい取り組みに挑戦してくださる同僚の先生方。感謝感謝です。

M2ミドルリーダー養成コース 平山 しのぶ
テーマ：自己効力感を育む授業づくり**—「自己目標」と「教師のフィードバック」に着目して—**

生徒たちと話していると自尊感情が低く、「どうせ自分は何をやってもできない」と話します。自尊感情

の構成要素である自己効力感に着目し、授業の中で向上させることができれば、自分に自信を持つものごとを考えることができるのではないだろうかと考えました。実際の授業の中では、教師による生徒へのフィードバック、生徒同士のフィードバックを行い、調査を行いました。私が想像していたものとは違う結果となり、何が原因なのか探っていくた

いと思います。

M2ミドルリーダー養成コース 元木 龍太

テーマ：主体的な学習者の育成を目指す自主学習の指導 —一人一人の特性に適した学習方略の活用を通して—



現場に戻り6カ月が経過しました。吉田教授のご支援、高屋校長をはじめとする

油川中学校の先生方の協力を得ながら、少しずつ研究が進んでいますが、目の前にいる子どもたちのニーズに対し最適なものを探るたびに、方法や内容、順序の修正を加える日々が続いているのも確かです。一方で、やはり現場が私の居場所だと確信もしております。現場ならではの忙しさとともに、現場にいるからこそその充実感と求めている生きがいに日々感謝しながら、中間報告会に向けて研究成果をまとめていきたいと思っています。

M2学校教育実践コース 伊藤 未祐

テーマ：言語活動の充実に向けた「学び合い」による授業実践



私は、言語能力の三側面「他者とのコミュニケーション」「創造的・論理的思考」「感性・情緒」の育成を支える「学び合い」による授業づくりを研究しています。今年度は、特に「創造的・論理的思考」の向上との親和性が高い教材を扱い、

佐藤学の「学び合い」による二つの課題設定に加え、課題への方向付けとなる発問の精選に取り組んできました。これから中間報告会に向け、授業録画での生徒の姿やワークシート、アンケートの記述を元にしなが、授業省察を進め、成果と課題についてまとめていきたいと思っています。

M2学校教育実践コース 葛西 泉花

テーマ：保健だよりを活用した養護実践



私は、保健だよりを活用した実践研究を行っています。保健だよりの下部に返信欄を設けて生徒と双方向のやりとりを行うこと、紙面での

発問により思考を促すことを意識し、前期実習では全部で3号発行しました。生徒からの返信は面白いものばかりで、楽しく実践を進めることができました。中間発表会に向け、前期実践の反省と、それを踏まえて後期実践でどのように改善していくかについてまとめていきたいと思っています。大学院生活も残すところあと半年なので、より学びを得られる有意義な時間にしていきたいです。

M2学校教育実践コース 仲村 みなみ

テーマ：より良い人間関係づくりを目指した心の健康教育



私は昨年度に引き続き「より良い人間関係の構築を目指した心の健康教育」というテーマで、小学6年生を対象にアサーション・トレー

ニングを取り入れた授業実践をおこないました。今回の授業実践をおこなうにあたって、児童が主体的・対話的に授業に取り組むことができるような工夫が必要だと考えました。発問の工夫やグループやペアでの活動中心にする等、教職大学院の講義での学びを活かすことができました。今後は、児童へのインタビューをし、さらなる分析や考察を深め、学校現場で取り入れていただけるようなものに仕上げたいと思っています。

M2教科領域実践コース 木村 郷

テーマ：運動に対する好意的感情の向上を目指して —運動有能感からの検討—



昨年度に行われた年次報告会での反省を受けて今年度、実習や研究に取り組んできました。昨年度は運動有能感からの

検討を主として研究していましたが、今年度はそれに加えて集団凝集性という観点からも研究を進めてきました。実習校で得た学びを研究成果として皆さんに発表できるように取り組みたいと思っています。中間報告会では様々な質問やご意見に期待し、それをもとにさらに研究を掘り下げ、最終報告会に向けて準備していきたいと思っています。

M2 教科領域実践コース 島津 杏佳

テーマ：生徒が主体的に参加できる中学校音楽科の授業づくり
—「鑑賞」の授業における生徒の多様な「聴く姿」に注目して—



今年度は、何とか無事に実習先の中学校で2週間の集中実習を終えることができました。

毎日の学校生活を生徒の皆さんや先生方と共に過ごさせていただいたことで、教員としての自覚やその責任感をさらに高めることができました。また、授業実践では、生徒の興味・関心を引き出すための工夫や、授業への参加意欲を高める工夫等について苦戦する場面も多くあり、新たな課題を発見することができました。中間発表会では、自分自身の課題と向き合いながら、研究テーマについての考察をさらに膨らませることができるように頑張りたいと思います。

M2 教科領域実践コース 中川 大輝

テーマ：地域教材を生かした社会科授業実践



私は地域を取り入れた教科実践に意義を感じています。地域のものを取り上げることで、地域から広い世界を見て比べることができると考えております。

大凡は広い世界から物事をみる学校現場において、小さい世界から世の中を考える活動は別の見方を養う上で良い取り組みと捉えています。小学校社会科がアプローチを行う上で適切であると考えており、今回は小学校現場でどれだけ地域学習が行われているのか、また傾向を把握した上でどのような切り口を行うのが良いかをお伝えしたいと思っております。

M2 教科領域実践コース 中島 柊太

テーマ：中学校数学科における自己内対話を活かした授業改善の研究
—生徒の内言を引き出す自己評価のあり方—



私の研究は、「中学校数学科における自己内対話を活かした授業改善の研究—生

徒の内言を引き出す自己評価のあり方—」です。生徒自身が授業中に考えたことを活かして、授業のふりかえりを充実させる目的があります。研究の実践では、中学生が、学んだことをまとめたり、発展的に考えたりすることを通して、ふりかえりの記述が意味のあるものになっていくことをねらいとして、机間指導や発問、ワークシート作成にかけて、授業中の教師のかかわりを工夫しました。発表会に向けて時間がありませんが、うまく発表できたらうれしいです。

M2 教科領域実践コース 濱谷 大輔

テーマ：数学の有用性を実感できる学習指導
—数学的モデル化に焦点を当てて—



現実の事象に対し数学を活用して問題解決を目指す「数学的モデル化」の授業実践を通じた、数学に対する生徒の意欲

の変容について研究しています。題材設定や授業の計画、意欲の見取り方等、課題が山積している状況ですが、大学教員や実習校の協力もあり、充実した日々を過ごすことができています。今後は中間発表会に向けた準備と並行しての研究となりますが、引き続き講義での学びや実習校での経験を生かしながら取り組んでいきたいと考えています。この活動が自身の成長のため、そして今後関わる生徒のためになるように頑張ります。

M2 教科領域実践コース 三浦 峻敬

テーマ：中学校数学科における学びに向かう力の育成—粘り強く考える態度を養う授業づくり—



私の研究では、生徒の「学びに向かう力」の育成のために、生徒の主体的に「粘り強く」考える態度、

また、そのきっかけとなる態度を養うことを目指しています。そのために、日々の授業の中でどのような指導の工夫ができるか検討しています。中間報告会では、集中実習での授業実践について報告したいと考えています。良かった点も改善点も含め、授業づくりについて多くの学びが得られた実習期間でした。当日も様々な意見を頂き、改善点を今後の研究や後期の実習に生かしたいと思っております。

M2 教科領域実践コース 宮野 純**テーマ：理科の生物における思考力を育成する授業づくり**

これからの社会において、我々は答えが決まっていけない難しい問題に立ち向かっていかなければなりません。そのような問題を解決する

ために、今までの知識を活用する力が必要になってきます。その力を育成するために、私は「理科の生物における思考力を育成する授業づくり」という研究テーマを掲げて研究を行っています。今回の中間報告では、授業内で知識を活用して考える問題を生徒に取り組んでもらっており、その実践概要と途中経過を報告したいと思っています。

M2 教科領域実践コース 森川 喜介**テーマ：数学の楽しさを味わわせる授業づくり**

一生活や学習に活かそうとする態度の育成を目指して一

研究内容について変更はありませんが、研究テーマを「数学の楽しさを味わわせる授業づくり 一生活

活や学習に活かそうとする態度の育成を目指して一」に変更して発表します。九月初めに行った集中実習では問題解決学習に挑戦し、数学の楽しさを味わわせることの難しさを実感しました。しかし、生徒の中には「授業楽しかった!」と言ってくれた生徒もいたので、何が楽しかったのか分析して中間報告会で発表できるように頑張ります。拙い発表になるかもしれませんが、よろしく願います。

M2 特別支援教育実践コース 野村 直樹**テーマ：知的障害教育におけるホームルーム**

活動を中心としたキャリア発達を促す授業実践 一「なりたい自分」を踏まえて生徒が設定する目標と協働的な振り返り一

中間報告会では、「生徒の学びを捉え直す」ことをテーマに実践研究

のまとめをしていきたいと思っています。これまで、生徒が自身の思いや願いから目標を設定し、目標に応じた実践を行い、対話的に振り返ることに取り組んできました。これらの取組における生徒の学びは、生徒や実習校の先生方との対話や授業動画の振り返りなどの形で、その都度記録してきました。今回の報告会に向けて、再度記録を整理し、また異なる視点で生徒の学びを捉えていき、充実した中間報告会にしたいと思っています。

修了生インタビュー**古川 弘基 (第二田名部小学校教諭 R3.3修了生)****Q. 教職大学院に進学してよかった点**

A. 教員として適格なのか悩みながら教職大学院に入ったが、大学院で学ぶうちに現場に立ちたいと思う気持ちが固まった。

大学院での学びが教員になりたいという自分の背中を押してくれたので、今がある。教科領域の専門の先生のもとで教材研究し、教材を見つめ直す経験を何度もしたことで、新しい単元の指導をする際に、様々な角度から、時には批判的に教材を見る姿勢が培われていった。また、学級通信を作成する授業を通して、子どもの向こうに保護者がいるという意識をもって仕事をするにつながっている。

Q. 大学院での学びが現場で役立っている点

A. 実際に教員になってみて思ったのは、教員の仕事はマルチだということ。授業しながら学級事務をしながら、保護者対応など……。しかし、それらは全く別々のことではなく、一つにつながっていることに気付かされる。それは、教職大学院において様々な学んだことをつなげて考えることができたこと、しかも自分のペースでできた経験が今に生きている。

〈編集・発行〉

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻
(教職大学院) News Letter 第17号 2022.10.3発行
〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel 0172-36-2111 (代表)
メールアドレス k-daigaku01@hirosaki-u.ac.jp
HP 弘前大学教育学部 (教職大学院をクリック)
弘前大学教職大学院 入試フォローアップ部会